さくらタイムス令和６年８月号

お題は「スキーマ：schema」です。過去の経験や外部の環境から構造化された「知識の集合体」で長期記憶に保存されています。例として「犬」と聞くと、「柴わんこ！」とだけ浮かぶ私がいれば、「シュナウザーにボルゾイにチワワにプードル etc…」と延々浮かぶ博識の方もいますが、それはそれぞれのスキーマの個性と言えます。その昔通訳の時に一番気を配ったのがこのスキーマの違いです。”dog”　をただ「犬」と訳しても両者のイメージが「チワワとボルゾイ」ほど違えば、会話は全く違う方向にゆくこともありました。そこで違和感が生じた時にはいつも原点に戻り、「四つ足の哺乳類で、ペットとしてよく飼われていて猫じゃない動物」と落とし込むと、「分かった、こういうことね」と会話が進みました。この互いに「通じた・分かりあえた」という感覚を大事にすることで、初対面でも笑顔で会話が弾み、互いに実りある時間となりました。短期間ではありましたが、この「複数の頭を合わせる」経験は今でも役に立っており、母国語でも通じない時に努力して分かり合うための原動力となっています。

さくらの子ども達のスキーマは形成が始まったばかりで、その中身がどのようになるかは私達保育者が何を与えるかにかかっています。遊具・おもちゃ・絵本などはもちろんのこと、さくらにいる間「五感」に触れるもの全てが可能な限り明るく・楽しい要素として幼い頭に蓄積されてゆくよう配慮しています。

もちろんお話を通して「痛みやつらさ」を感じ取り、想像力で思いやれるようにも努力しています。注意すべきは決して特定の考えに偏らないようにすることで、何事にも自分でその都度考えて結果を出してゆけるようなゆとりも必要です。ただし唯一ぶれてはならないのは「命の尊さ」です。ご両親から命を与えられ、大事に・大事にいつくしまれていることのありがたさを十分に感じながら、同じように他者の命も大事に考えられるようになってほしいです。幼い子らのかわいい「おつむ」が健康な身体とともに個性豊かに育ってゆきますように。

園長　山内　香幸